

The Japanese
Society of
Practitioners for
Pediatric Dentistry

JSPPP

【入会方法】JSPPPのHP (<http://www.jspp.net/>) より入会資料請求フォームに記載の上、ご請求ください。
年会費 10,000円、入会金 10,000円

「JSPPP小児歯科将来検討委員会の 今までの活動」



全国小児歯科開業医会 副会長

犬塚 勝昭

(医)いぬづか子供歯科クリニック、浜松市開業

子ども歯科専門で開業して27年目を迎えました。開業当初は、まだ浜松市ではDE抜髄即根充乳歯冠の治療が毎日のようにありました。むし歯の予防や定期検診希望は皆無でしたが、現在は初診患者の約半数は検診希望です。先日見学に見えた歯科衛生士が、当院のスタッフに医院の目標を聞いていました。私はギクッとしたのですが後の祭りです。肉体的、精神的、経済的負担を極力少なくして、適切な時期に最大の効果を生む処置をすることが成長期の子どもを扱う小児歯科の大きな役割です。しかし具体的な医院目標は明確に伝えていませんでした。その後、具体的目標を設定し、現在は「12歳でむし歯経験なし90%以上、歯肉炎なし、個性正常咬合」を目指して発達期の子どもたちの口全体の機能の育成を支援しています。

もう一つ大事な医院の目標として「定期的に検診を受ける子どもの割合85%以上」があります。現在80%のリコール率ですが、ここからの5%アップがなかなか達成しません。

さて、JSPPPの小児歯科将来検討委員会では、今まで小児歯科の厳しい経営環境を調査した資料や自助努力情報を提供してきました。

たとえば

1. 処置手術の50/100加算が5歳未満に引き下げられたことによる経済的影響を調査し、小児歯科学会と協力して日歯へ加算の年令対象を6歳未満に戻す働きかけをしました。一度決まった点数改定が元に戻ることはないのですが、今回の診療報酬改定では6歳未満に引き上げられました。

2. 各医院で小児歯科患者の需要拡大のため工夫していること、たとえば待合室の掲示物、ニュースレターやリーフレットの発行、遊び場の設置とおもちゃ、

ごほうびのおみやげ、院外活動などの紹介をしてきました。今後もさらに臨床ヒントになるようなアイテムを紹介していくことがJSPPPの大きな役割の一つだと考えています。

3. 小児歯科診療の大変さを理解してもらうため、乳臼歯部隣接面むし歯のCR充填に関して4歳児と6歳児の平均診療時間と平均補助者数を調査したこともありました。

4. 乳幼児医療費助成制度は地域により大きな格差があります。JSPPPとしては格差是正のため全国の医療費助成の実態を調査し、情報提供をしてきました。

5. 小児歯科専門医での定期検診の効果について疾患予防効果と経済効果の両面から調査し、JSPPP研究助成報告をしていただきました。今回の調査からは経済効果があるという明確な数字を出すことはできませんでした。各医院において今までの歯科検診のあり方で本当に効果があったかどうか再評価しなければいけないと考えています。

6. 平成16年には各地で自分の歯科医院から外に出て小児科や産科の先生方、また保健師、看護師、助産師や保育士、養護教諭などと連携して小児歯科保健の向上に貢献する活動をされている報告を収集し、その情報を全国各地のJSPPP会員に発信しました。

7. 数年前、小児歯科の日常臨床でよく経験する悩みとその対応工夫に関して調査し、結果をJSPPPホームページに掲載しました。

最近までの委員会の仕事の概略を述べましたが、私としてはJSPPPと日本小児歯科学会とのパイプ役になりながら、日本小児歯科学会での社会保険、地域保健、広報の活動を通して小児歯科専門開業医の役割を果たしていきたいと思っています。

小児歯科専門医が、いわゆる小児歯科標榜の一般歯科医とはさすが違うと言われ、社会的に認知されるかどうかは、これからの我々の取り組み方にかかっていると思います。今期よりJSPPP副会長を拝命致しましたが、JSPPPの中に自分がいるというより、自分の中にJSPPPが存在するという看板を背負って行動していくつもりです。よろしくお願いします。